

# 事務事業分析シート（平成27年度）

No1

主要事業	事務事業コード	05-04-01	戦略プラン	●協働 ○業務 ○財務 ○人事
事務事業名	ロケーション関連事業	部課名	産業経済部観光振興課	課長名
		担当者名	増山	内線
				461
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（27年度）				
事務事業の種類	○新規事業（○27年度 ○26年度）		○建設事業	○それ以外の継続事業
開始年度	○昭和 ●平成	15年度	根拠	
終期設定	●有 ○無	24年度	法令等	
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	○計画 ●非計画
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市	
	政策	06	人が集う魅力あるまちの形成	
	施策	01	観光による地域活性化の推進	
目的	映画、ドラマ、CMなどの撮影を区内に誘致し、映像を通して区のイメージアップを図る。			
対象者等	映画、ドラマ、CMなどの制作会社 視聴者（区民、区外在住者）、来訪者			
内容	ロケに関する相談受付、情報提供、区施設使用に係る連絡調整 ※旧道灌山中学校については耐震基準を満たしていないため、平成24年度末を以って暫定利用を終了した。			
経過	平成13年 3月 道灌山中学校廃校 9月 校舎をACCに無償貸与 平成15年 2月 ACCがロケ場所として提供（映像制作コーディネータに貸付け） 10月 ACCへの無償貸与中止、区が映像制作コーディネータに貸付け 平成17年 4月 公募により、コーディネータの選定 平成18年 6月 貸付け方法の見直し 平成19年 3月 公有財産管理運用委員会において、平成22年度まで延長決定 平成20年 6月 25年3月までの暫定利用期間の延長の方向（3ヵ年） 平成25年 3月 施設閉鎖に伴い平成24年度末を以ってロケ施設事業終了			
必要性	映像を通じた区のイメージアップ及び施設の有効活用を図ることができる。			
実施方法	（1直営） （直営の場合 ○常勤 ●非常勤 ○臨時職員）			

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	予算額		1,352	1,597	1,383	1,345	—	—
①決算額（27年度は見込み）		666	777	781	537	—	—	—
②人件費等		1,018	1,570	1,241	1,226	416	386	
③減価償却費			1,017	1,089	1,129	169	163	
【事務分担当】（%）		30	35	35	35	5	5	
合計（①+②+③）		1,684	3,364	3,111	2,892	585	549	0
特定財源	国							
	都							
	その他	3,276	3,276	3,276	3,276			
一般財源		-1,592	88	-165	-384	585	549	0
実績の推移	事項名	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	旧道灌山中学校利用件数	72	62	66	77	0	0	
	その他区施設でのロケ件数	33	44	10	13	12	12	
	ロケに関する相談等受付件数	59	91	114	136	11	5	

予算・決算の内訳								
平成25年度（決算）			平成26年度（決算）			平成27年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		24年度	25年度	26年度	27年度見込み	目標値(28年度)	
標	① 旧道灌山中学校利用件数	77	0	0			暫定利用（平成25年3月終了）
	② その他の区施設でのロケ件数	13	12	12			公園の利用状況
	③						

（問題点・課題）	旧道灌山中学校のロケーション施設としての活用が終了後、区内におけるロケ件数が大幅に減少した。今後のロケーション事業の在り方について、検討していく必要がある。
	（実施 4 区 未実施 18 区 不明 0 区） 台東区フィルムコミッション（平成17年度～）、すみだフィルムコミッション（平成23年度～）、葛飾区観光フィルムコミッション（平成24年度～） 学校施設の提供は、台東区、豊島区が実施

問題点・課題の改善策			
	平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成26年度に実施した改善内容および評価	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	25年度に構築したデータベースの活用と改善を重ねていく。	25年度に構築したデータベースを活用し、実績の蓄積を図った。	—
②			
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
27年度	28年度	
休止・完了	休止・完了	旧道灌山中学校のロケーション施設としての活用が24年度末を以って終了した。 今後は、観光情報提供事業の中で、ロケーション対応していく。

況 議 会 （ 要 質 問 状 ）	H14二定 FCの検討について H14三定 「ロケの街」として売り込むための取り組みについて H21一定 「フィルムコミッション」への取り組みについて
---	---

# 事務事業分析シート（平成27年度）

No1

主要事業	事務事業コード	05-04-02	戦略プラン	○協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	観光情報提供事業		部課名	産業経済部観光振興課	課長名	中野	
			担当者名	三宮、増山、斉、中嶋	内線	461	
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（27年度）	01-01-01	観光情報提供事業					
事務事業の種類	○新規事業（○27年度 ○26年度）		○建設事業		○それ以外の継続事業		
開始年度	○昭和 ●平成 14年度		根拠				
終期設定	○有 ●無 年度		法令等				
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分		●計画 ○非計画		
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市				
	政策	06	人が集う魅力あるまちの形成				
	施策	01	観光による地域活性化の推進				
目的	荒川区の観光情報を区内外に広く提供することによって、区のイメージアップを図るとともに区への来訪者を増やし、地域経済の活性化を図る。						
対象者等	区外の人々及び区への来訪者						
内容	①観光ガイド（イベントカレンダー）作成（14年度～）、H22、23英語版 ②HPに区内行事のインターネット動画配信（14年度～） ③HPに都電荒川線花見どころサイトの開設（14年度～26年度） ④まちあるきマップ作成（17年度 日暮里・南千住、18年度 都電荒川線沿線、19年度 日暮里・南千住改訂、20年度 都電荒川線沿線に舍人ライナーを含め改訂、21年度 日暮里・南千住改訂、日暮里・谷中マップ作成、22年度 都電舍人ライナー沿線、23年度 日暮里改訂、千住散策マップ作成、日暮里・谷中増刷改訂、24年度 南千住改訂）、⑤観光PR協力所設置85か所（H27.5.20現在）、⑥都電荒川線散策マップ（19年度）、⑦行政観光パンフレット作成（20年度作成、23年度改訂）、⑧観光スポット特集冊子の作成（20年度）、⑨京成日暮里駅構内PRコーナー運営（24年度～ 掲示板2か所、ラック1台）、⑩イメージポスター作成（24年度）、⑪ツイッター開始（24年度）、⑫日暮里駅前イベント広場電光掲示板情報更新（25年度～）⑬南千住駅構内PRコーナー運営（26年度～机1台、パーテーション1台）						
経過	○平成22年度から観光ボランティアガイド事業を受入体制整備事業へ移管した。 ○区内行事のインターネット動画配信 18年度から9件（都電荒川線のバラ、素盞雄神社天王祭、諏訪神社御神幸祭、胡録神社例大祭、尾久八幡神社例大祭、仲町通り阿波踊り大会、元三島神社神幸祭、熊野前サンバカーニバル）を常時配信していたが、21年度に主要5イベントに一本化（ダイジェスト版を作成）した。 ○産業HPで都電荒川線花見どころサイトを運営していたが、27年度の区HPリニューアル時に統合し、花見どころサイトは廃止となった。						
必要性	多様な情報発信により区のイメージアップ及び来訪者の増加が期待できる。						
実施方法	（一部委託） （直営の場合 ○常勤 ○非常勤 ○臨時職員）						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	予算額		5,681	6,984	4,155	2,226	1,237	1,338
①決算額（27年度は見込み）		4,738	3,590	3,475	1,485	862	731	1,906
②人件費等		9,895	11,476	7,622	6,196	6,111	4,158	
③減価償却費			3,922	2,799	2,420	2,704	1,951	
【事務分担量】（%）		125	135	90	75	80	60	
合計（①+②+③）		14,633	18,988	13,896	10,101	9,677	6,840	1,906
特定財源の推移	国							
	都							
	その他		184	341				
一般財源		14,633	18,804	13,555	10,101	9,677	6,840	1,906
実績の推移	事項名	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	観光ガイド（イベントカレンダー）	32,000	33,000	33,000	30,000	30,000	30,000	
	まちあるきマップ（区単独）	160,000	92,000	118,000	118,000	—	100,000	
	まちあるきマップ（他区連携）	150,000	7,000	150,000	—	67,000	—	
	観光PR協力所設置件数（延べ）	64	66	67	74	79	85	

予算・決算の内訳								
平成25年度（決算）			平成26年度（決算）			平成27年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
委託料	まちあるきマップほか	820	需用費	観光PRチラシ作成ほか	103	需用費	観光PRチラシ作成費ほか	218
需用費	観光振興ポスター	42	委託料	区外向けパンフ作成ほか	628	委託料	まちあるきマップ作成費ほか	1,688

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		24年度	25年度	26年度	27年度 見込み	目標値 (28年度)	
標	① 観光PR協力所の設置件数（延べ件数）	74	79	85	85	85	
	②						
	③						

（問題点・課題分析）	①区への来訪者を増やすためには区外への情報発信が不可欠となるが、そのためには、新たなツールを積極的に開拓していく必要がある。
	②時期によって掲示するものがなく、空きスペースのできる京成日暮里駅構内に設置している掲示板を有効活用すること。
	③オリンピック・パラリンピック開催に伴い、今後増加が予想される外国人観光客に向けた情報発信手段を確保していく必要がある。
他区の実況	（実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区）

問題点・課題の改善策			
	平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成26年度に実施した改善内容および評価	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	新たな情報発信ツールを開拓し、積極的な情報発信に努めるとともにマスコミ等とのつながりを深め、情報の露出度をより一層高める。	南千住駅構内に観光PRコーナーを設置し、情報発信を行っている。また、広報課へプレスを依頼するなど情報提供を積極的に行った。	新たな情報発信ツールを開拓し、情報発信手段の拡大を図るほか、マスコミ等に対し、積極的に情報を行い、露出度を高める。
②	他部署からの京成日暮里駅構内掲示板への掲示依頼を受けるため、掲示板の使用方法を定め各部署に周知する。	月ごとの掲示状況を確認した。結果を元に使用方法のマニュアル（素案）を作成した。	作成したマニュアル（素案）を元に、調整し、各部署に周知しPRに努める。
③	—	—	オリンピック・パラリンピック開催に向け、荒川区ホームページに外国人向け観光情報サイトのページを作成する。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
27年度	28年度	
推進	推進	区のイメージアップ及び来訪者の増加を促進するため、引き続き区内外に向け、様々な情報を発信していく。

議会（要質問状）	H24一定 日暮里駅周辺において、地元と協力して情報発信を進めるべき。
----------	-------------------------------------

# 事務事業分析シート（平成27年度）

No1

主要事業	事務事業コード	05-04-03	戦略プラン	●協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	荒川区観光大使PR事業	部課名	産業経済部観光振興課	課長名	中野	担当者名	三宮
				内線	461		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（27年度）	01-01-02	荒川区観光大使PR事業					
事務事業の種類	○新規事業（○27年度 ○26年度）			○建設事業		○それ以外の継続事業	
開始年度	○昭和 ●平成 18年度		根拠	荒川区観光大使設置要綱			
終期設定	○有 ●無 年度		法令等				
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	●計画		○非計画	
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市				
	政策	06	人が集う魅力あるまちの形成				
	施策	01	観光による地域活性化の推進				
目的	「荒川区観光大使」によるPR活動により区のイメージアップを図る。						
対象者等	荒川区在住又は出身者で、区に愛着を持ち、区の魅力を積極的に紹介していただける著名人 区民、区外の人々及び来訪者						
内容	（観光大使） 城戸真亜子（洋画家）、三遊亭好楽（落語家）、井崎脩五郎（競馬評論家・タレント）、片岡鶴太郎（俳優・画家）の4名⇒①区の最新情報（旬な話題、観光イベント情報、観光パンフ等）を随時提供。 ②観光大使用PR物品を作成し、それぞれの立場において機会のあるごとに荒川区をPRしてもらう（名刺、都電荒川線ポストカード、産業振興課シンボルキャラクター「わざ丸」の携帯ストラップ等）、③区長と観光大使との対談を実施し、対談内容をケーブルテレビやホームページ等で情報発信する。						
経過	平成19年度 観光大使が区の魅力を紹介する「私の大好きなまち」作成（23年度改定） 平成21年度 区長との意見交換会を実施（城戸氏、好楽氏、井崎氏が出席） 平成22年度 区長との意見交換会を実施（好楽氏、井崎氏が出席）						
必要性	著名人の協力による幅広い人脈やネットワークを活かし、区の知名度及びイメージの向上を効果的に図ることができる。						
実施方法	（1直営） （直営の場合 ●常勤 ○非常勤 ○臨時職員）						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	国 都 その他	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
		予算額		318	315	586	638	236
①決算額（27年度は見込み）		225	85	292	353	10	91	166
②人件費等		1,221	1,308	2,541	826	2,079	386	
③減価償却費			436	933	323	845	163	
【事務分担量】（%）		15	15	30	10	25	5	
合計（①+②+③）		1,446	1,829	3,766	1,502	2,934	640	166
特定財源								
一般財源		1,446	1,829	3,766	1,502	2,934	640	166
実績の推移	事項名	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	観光大使任命（人）	0	0	0	0	0	0	
	区長との対談（回）	1	1	0	0	1	1	
	PR活動（名刺、ストラップ等）	300	—	10,000	2,500	—	2,000	
	あらかわの魅力伝え隊	1	1	0	0	0	0	

予算・決算の内訳								
平成25年度（決算）			平成26年度（決算）			平成27年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
需用費	消耗品、大使図書購入	10	需用費	大使PR用物品購入	91	需用費	大使PR用消耗品ほか	148
使用料等		0				使用料等	大使会会場使用料	18

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		24年度	25年度	26年度	27年度 見込み	目標値 (28年度)	
①	区長との対談（回）	0	1	1	1	1	
②							
③							

問題点・課題 (指標分析)	①観光大使に荒川区をPRしてもらうため、区の最新動向などをきめ細かく情報提供する必要がある。 ②区外で活動する機会を持つ小中学生等に荒川区の魅力発信をしてもらえる仕組みをつくる必要がある。
	他区の実況 (実施 7 区 未実施 15 区 不明 0 区) 中央区（ミス中央）3人、台東区（たいとう観光大使）25人、豊島区（ソメイヨシノ桜の観光大使）3人、大田区（来一る大田区大使）10人、北区（北区アンバサダー）6人、品川区（観光大使）5人、墨田区（すみだ親善大使）3人

問題点・課題の改善策			
	平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成26年度に実施した改善内容および評価	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	観光大使への観光情報提供の機会をより多く設ける。	パンフレット等を定期的に送付するだけでなく、面会の機会を利用して、情報提供の機会を積極的に作った。	引き続き観光大使への情報提供をきめ細かく行っていく。
②			区外で活動する機会を多くもつ小中学生等に荒川区の魅力発信をしてもらえるような仕組みづくりを検討する。
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
27年度	28年度	
継続	継続	引き続き観光大使のPR力を活用し、区の観光情報を発信していく。

況議会 (要質問状)	
---------------	--

# 事務事業分析シート（平成27年度）

No1

主要事業	事務事業コード	05-04-04	戦略プラン	●協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	産業観光推進事業	部課名	産業経済部観光振興課	課長名	中野	担当者名	中嶋
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（27年度）	01-02-01	産業観光推進事業					
事務事業の種類	○新規事業（○27年度 ○26年度）		○建設事業		○それ以外の継続事業		
開始年度	○昭和 ●平成 14年度		根拠	荒川区モノづくり見学・体験スポット整備支援事業要綱			
終期設定	○有 ●無 年度		法令等				
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	●計画		○非計画	
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市				
	政策	06	人が集う魅力あるまちの形成				
	施策	01	観光による地域活性化の推進				
目的	荒川区の産業技術や伝統工芸技術、区内で製造・販売されている優れた商品の紹介とPR、そしてモノづくり見学・体験スポットを通じて、モノづくりの街荒川のイメージアップと産業観光を推進する。						
対象者等	商品の製造、販売事業者 区民、区外の人々及び来訪者						
内容	<p>○「モノづくり見学・体験スポット整備支援事業」「モノづくり」工房やギャラリー等を一般公開する者に対し、スポットとして認定する。必要に応じ改修等の費用を補助2/3補助(100万円上限)うち、1/2は都補助あり、[19年度2件、20年度6件、21年度4件(計)12件、22年度3件(計14件)×1件廃止あり、23年度3件(計16件)×1件辞退あり、24年度1件計17件、25年度7件(23件)、26年度3件(26件)]</p> <p>○観光PRコーナーの設置(おすすすめ品の販売等)・26年度実績</p> <p>①あらかわの伝統技術展、②荒川区産業展*、③TCK大井競馬場*、④つくば市産業展*、⑤路面電車の日*、⑥都電荒川線の日*、⑦バラの市、⑧まるごとバザールin大垣*、⑨都庁観光情報センターPRコーナー(伝統工芸、マイスターの実演)*、⑩モノスポ2014*、⑪隅田川駅貨物フェスティバル*、⑫大垣春の芭蕉祭り(大垣)*⑬伊賀市物産展* ⑭鹿沼ぶっつけ秋祭り*</p> <p>*はブランドの物販あり</p> <p>○「荒川ブランド」商品を紹介する冊子の作成・配布 ○平成27年度からモノスポツアー実施</p>						
経過	<p>○平成19年度 モノづくり見学・体験スポット整備支援事業開始</p> <p>○平成20年度</p> <p>①都電ウォークラリーは分離し、単独事業へ。②荒川ブランドセールスプロモーション事業を統合した。</p> <p>③伝統技術展は経営支援課へ移行した。</p> <p>○平成23年度 「駅からハイキング関連事業補助」経費を観光イベント助成へ組み替え</p> <p>○「荒川ブランド」を紹介する冊子の内容</p> <p>平成17年度 荒川のおすすめ品 区民が選んだおみやげ編Part1(33商品)、平成18年度 伝統工芸品、荒川マイスター製品編(伝統工芸品47商品、荒川マイスター製品17商品)(計64商品)、平成25年度 伝統工芸品、荒川マイスター製品編改訂(伝統工芸品42商品、荒川マイスター製品17商品)(計59商品) ※20年度、22年度にも改訂あり</p>						
必要性	モノづくりの街荒川の地域資源を活かし産業観光を推進することは、地域産業の活性化を促進することが期待できる。						
実施方法	(一部委託) (直営の場合 ○常勤 ○非常勤 ○臨時職員)						

(単位：千円)

予算・決算額等の推移		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	予算額		8,179	8,321	5,551	5,422	5,010	4,776
①決算額(27年度は見込み)		3,475	3,324	3,328	2,683	4,393	3,706	6,509
②人件費等		5,700	7,848	8,046	9,913	6,238	10,429	
③減価償却費			2,615	2,955	3,872	2,535	4,389	
【事務分担量】(%)		70	90	95	120	75	135	
合計(①+②+③)		9,175	13,787	14,329	16,468	13,166	18,524	6,509
特定財源の推移	国							
	都		888	672	856	823		
	その他							
一般財源		8,287	13,115	13,473	15,645	13,166	18,524	6,509
実績の推移	事項名	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	PR事業(回)	12	15	13	15	14	19	
	内、ブランドPRイベント(回)	8	10	9	11	12	13	
	商品紹介冊子作成(部)	-	25,000	-	-	25,000	-	
	モノづくり見学体験スポット	4	3	3	1	7	3	

予算・決算の内訳								
平成25年度（決算）			平成26年度（決算）			平成27年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	審査員謝礼等	89	報償費	観光振興イベント出店者報償費ほか	90	報償費	観光振興イベント出店者報償費ほか	117
一般需要費	荒川ブランドPR用消耗品	94	旅費	釜石市	52	旅費	釜石市	118
旅費	大垣市	72	需用費	荒川ブランドPR用消耗品	24	需用費	荒川ブランドPR用消耗品	607
委託料	イベントPR設営等	2,797	委託料	イベントPR設営等	1,805	役務費	モノスポツアー保険料	2
使用料	荒川ブランドPR	336	使用料等	あらかわモノスポ2014会場使用料	375	委託料	イベントPR設営等	3,309
負担金	モノスポ整備補助金	1,005	負担金補助等	モノスポ整備補助金	1,360	使用料等	あらかわモノスポ2015会場使用料	356
						負担金補助等	モノスポ整備補助金	2,000

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		24年度	25年度	26年度	27年度 見込み	目標値 (28年度)	
標	① イベント会場での実演・展示実施件数	15	14	14	14	19	
	② モノづくり見学・体験スポットの件数	17	23	26	30	29	数値は累計
	③ モノづくり見学・体験スポットの年間来訪者数	2079	2602	2303	2600	2900	

（問題点・課題分析）	①現在26箇所の「モノづくりスポット」の年間来訪者数は約2,300人である。来訪者が0名の店舗と400名以上の店舗とがあり差が大きい。キャパシティの面から受入人数が少ないなど各スポットの特性を考慮しつつ、「モノづくりスポット」全体として一層のPRを行うことが課題である。
	②「あらかわモノスポ」や「都庁PR」など事業者が一堂に介するPRイベントを区外にて行っており一定の効果をあげているが、来場者がイベント終了後に区内の店舗を訪れるような取り組みを行うことが課題である。
他区の実況	（実施 5 区 未実施 17 区 不明 0 区） 東京都産業を活かした観光ルート整備支援事業活用区 台東区（中小製造業アトリエ化支援事業）、豊島区（伝統工芸を巡る小路案内事業）、墨田区（3M運動ガイドマップ）、板橋区（産業観光整備事業）、江東区（ものづくりマップ作成）

問題点・課題の改善策			
	平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成26年度に実施した改善内容および評価	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	モノづくりスポットに認定されている各事業者へ聞き取り調査を行い、事業者と共に改善策を検討する。	全スポットをまわって今後の取り組みについての各事業者の意見をヒアリングした。	新規事業として、モノづくりスポットをまわれるツアーやスタンプカードキャンペーンを実施する。
②	「あらかわモノスポ」「都庁PR」にて来場者を区内へ誘導する仕掛けを実施する。	「都庁PR」について、集客が見込める日程（曜日）に展示ができるよう調整を行った。	前年度の反省点を生かし、さらに工夫を重ねる。
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
27年度	28年度	
重点的に推進	重点的に推進	モノづくりのまち荒川を区内外に向け、広く周知するため、「モノづくり見学・体験スポットツアー」とスタンプカードキャンペーンを27年度に実施する。28年度以降も引続きモノづくり見学・体験スポットの拡大とPR強化を図る。

況議 （要 質 問 状）	H17二定 産業観光の視点で、姉妹友好都市交流をするべき。
--------------------------	-------------------------------

# 事務事業分析シート（平成27年度）

No1

主要事業	事務事業コード	05-04-05	戦略プラン	●協働 ○業務 ○財務 ○人事
事務事業名	観光イベント支援事業	部課名	産業経済部観光振興課	課長名
		担当者名	中嶋、山岸、増山	内線
				461
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（27年度）	01-03-01	川の手荒川まつり事業		
	01-03-02	観光イベント助成		
	01-03-03	隅田川花火大会事業		
事務事業の種類	○新規事業（○27年度 ○26年度）		○建設事業	○それ以外の継続事業
開始年度	●昭和 ○平成 62年度		根拠	川の手荒川祭り実行委員会実施事業補助金交付要綱、荒川区観光振興事業補助金交付要綱
終期設定	○有 ●無 年度		法令等	
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	●計画 ○非計画
行政評価事業体系	分野	Ⅲ 産業革新都市		
	政策	06 人が集う魅力あるまちの形成		
	施策	01 観光による地域活性化の推進		
目的	区民等の開催する観光事業を支援し、区民とともに観光資源を育成する。			
対象者等	区民主体の民間団体 区民、区外の人々及び来訪者			
内容	<p>1 川の手荒川まつり実行委員会補助 22年度（南千住野球場）8,191千円、23年度（東尾久運動場）62千円（中止）、24年度（東尾久運動場）9,197千円、25年度（荒川遊園運動場）9,025千円、26年度（汐入公園）8,308千円</p> <p>2 観光振興事業補助 25年度3件 856千円（電車まつり789千円、秋の鳴く虫の声鑑賞会50千円、富士見坂写真展17千円） 26年度9件2,098千円（電車まつり782千円、フードフェスティバル500千円、炭坑節祭り480千円、ハロウィン121千円、あらかわまちの駅ウォークラリー50千円、国蝶材木拵観覧会50千円、秋の鳴く虫の声鑑賞会50千円、富士見坂写真展41千円、荒川区の庶民文化と日本の伝統文化を体験する国際交流まちあるき24千円）</p> <p>3 隅田川花火大会実行委員会への負担金 ・24年度50万円（オブザーバ参加）・25年度150万円（実行委負担金）・26年度150万円（実行委負担金）</p>			
経過	<p>○川の手荒川まつり 昭和62年以来、（計5回を除き）毎年4月29日（祝）に実施。17年の実行委員会において開催場所を南千住野球場、東尾久運動場、荒川遊園運動場、汐入公園で毎年開催することをルール化した。</p> <p>○平成23年度 ・「駅からハイキング関連事業補助」経費を産業観光推進事業から組み替え。 ・「シダレザクラ祭り補助金」が公園緑地課に移管。</p> <p>○駅からハイキングにおける商店街PRのための補助 多数の外客が見込めるイベント等において、下町商店街の魅力を伝え、再訪を促す取り組みとして平成20年度より実施していたが、平成25年度よりJRによる実施方法が変更となった（駅ポ：スマホのGPS機能を使った通年のまちあるきへ移行）ため、補助を廃止した。</p>			
必要性	区民・地域団体等が実施するイベントを支援することで、より多くの集客の機会を創出することが出来る。			
実施方法	（一部委託）（直営の場合 ○常勤 ○非常勤 ○臨時職員）			

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	国 都 その他	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
		予算額		12,340	12,310	10,407	12,325	14,124
①決算額（27年度は見込み）		11,845	11,218	1,775	12,076	12,802	12,901	15,205
②人件費等		9,798	11,737	9,287	7,977	10,125	7,930	
③減価償却費			4,503	4,043	3,550	4,225	3,739	
【事務分担量】（%）		145	155	130	110	125	115	
合計（①+②+③）		21,643	27,458	15,105	23,603	27,152	24,570	15,205
特定財源								
一般財源		21,643	27,458	15,105	23,603	27,152	24,570	15,205
実績の推移	事項名	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	シダレザクラ祭り参加者（人）	8,500	10,000	—	9,200	—	9,000	
	事業補助金（日暮里イベント含む）	5	3	6	7	3	8	
	川の手荒川まつり来場者（人）	60,000	60,000	—	70,000	70,000	72,000	
	川の手荒川まつり参加団体	147	146	—	140	132	137	

予算・決算の内訳								
平成25年度（決算）			平成26年度（決算）			平成27年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
負担金補助等	川の手荒川まつり補助金	9,024	報酬	隅田川花火大会非常勤報酬	3	報酬	隅田川花火大会非常勤報酬	8
負担金補助等	事業補助金	2,356	職員手当等	時間外手当（川の手、花火）	492	職員手当等	時間外手当（川の手、花火）	599
賃金	臨時職員	558	賃金	臨時職員（川の手）	554	賃金	臨時職員	576
委託料	隅田川花火廃棄物処理等	546	需用費	隅田川花火大会消耗品	88	需用費	隅田川花火大会消耗品	100
職員手当等	時間外手当	223	委託料	隅田川花火大会廃棄物処理等	959	委託料	隅田川花火大会廃棄物処理等	1,167
需用費	隅田川花火消耗品	96	負担金補助等	川の手荒川まつり補助金、隅田川花火大会分担金	2,497	負担金補助等	川の手荒川まつり補助金、隅田川花火大会分担金	11,105
職員手当等		0	負担金補助等	観光振興事業補助金ほか	8,308	負担金補助等	観光振興事業補助金ほか	1,650

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		24年度	25年度	26年度	27年度 見込み	目標値 (28年度)	
①	観光事業補助金申請件数	7	3	9	9	9	日暮里イベントを含む
②	川の手荒川まつり来場者数(千人)	70	70	72	78	78	
③							

（問題点・課題分析）	①川の手荒川まつりについて、現在4会場にて毎年ローテーション開催しているが、安全面で問題がある会場や、出店ブース等の確保が困難な会場もあるため、今後見直しが必要である。
	②隅田川花火大会については、区内の観覧場所となる汐入地域において、実行委員会として関係機関と調整し安全対策を万全に図らねばならない。
他区の実況	（実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区）

問題点・課題の改善策			
	平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成26年度に実施した改善内容および評価	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	会場の決定及び実施方法については見直しを行う。	会場の決定及び実施方法については見直しを検討するための資料を作成し、関係者の一部に説明を行った。	まつりを円滑かつ効率的に実施するため、会場や実施方法等について見直しの検討を行う。
②	汐入地域における観覧者の安全対策を一層進め、警察消防と連携し、警備体制を構築する。	自主警備対策従事者を増やし、安全対策を一層進めた。ごみ対策等における工夫・見直しを行う。	汐入地域における観覧者の安全対策を引き続き進めるとともに、地元商店街の活性化に結び付くような取り組みを行っていく。
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
27年度	28年度	
重点的に推進	重点的に推進	区民・事業者の自主的活動は、観光振興による地域の活性化を図る上で欠かせないものであることから、今後より一層の支援強化を図っていく。

況議 （要 質 問 状）	H16一定 H14三定 H17二定	沿線商店街と連携した都電乗客サービスの提供と路面電車サミットの開催について 都電沿線の文化祭における区及び地元商店街の関わり方について 日暮里・舎人線の開通に合わせて、イベントを開催してはどうか。
--------------------------	-------------------------	--

# 事務事業分析シート（平成27年度）

No1

主要事業	事務事業コード	05-04-06	戦略プラン	●協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	観光振興懇談会運営費		部課名	産業経済部観光振興課	課長名	中野	
			担当者名	村中、大和田、中嶋		内線	461
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（27年度）	01-04-01	観光振興懇談会運営費					
事務事業の種類	○新規事業（○27年度 ○26年度）		○建設事業		●それ以外の継続事業		
開始年度	○昭和 ●平成 18年度		根拠	荒川区観光振興懇談会設置要綱			
終期設定	○有 ●無 年度		法令等				
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	●計画		○非計画	
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市				
	政策	06	人が集う魅力あるまちの形成				
	施策	01	観光による地域活性化の推進				
目的	観光に関する様々な分野の有識者で構成する懇談会を開催し、区の観光振興の目指すべき方向とその実現のために必要な具体的施策等について検討を行う。懇談会の提言に基づき、区の観光振興施策の効果的な推進を図る。						
対象者等	学識経験者、観光関係団体、観光・交通事業者、産業団体関係者等						
内容	<p>【平成27年度】</p> <p>1 区内の観光及び観光資源の現状 2 前回報告書提言内容の実施状況</p> <p>3 観光振興施策の今後の方向性及び具体的施策</p> <p>2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催を見据えてさらなる誘客を図るため、懇談会を開催</p> <p>【平成19～22年度】</p> <p>18年度の調査報告書、懇談会提言に基づく区の観光施策の実施状況やその他の社会情勢変化に伴う見直し等の検討・検証</p> <p>【平成18年度】</p> <p>1 区内の観光及び観光資源の現状 2 これまでの観光振興施策</p> <p>3 他自治体における事例等の調査研究 4 調査機関による基礎調査の分析・検討</p> <p>5 観光振興施策の今後の方向性及び具体的施策</p>						
経過	<p>【平成18年度】</p> <p>様々な分野の有識者で構成する観光振興懇談会を5回開催し、観光振興の目指すべき方向性と具体的施策について検討し、提言を報告書としてまとめた。</p> <p>【平成19年度から平成22年度】</p> <p>18年度の調査報告書、懇談会報告書の提言に基づく区の観光施策の実施状況やその他の社会情勢変化に伴う見直し等の検討・検証（19年2回、20年3回、21年1回、22年1回）</p> <p>【平成24年度】</p> <p>観光事業コンサルタントによる講演会、質疑応答、意見交換である研究会を1回実施</p> <p>※平成23年度、25年度、26年度は未実施</p>						
必要性	専門家からの提言・助言を活かすことで、より効果的な区の観光振興施策を推進していくことが出来る。						
実施方法	(1直営) (直営の場合 ●常勤 ○非常勤 ○臨時職員)						

(単位：千円)

予算・決算額等の推移	国 都 その他	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
		一般財源	923	1,271	579	597	585	1,647
実績の推移	事項名	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	観光基礎調査	-	-	-	-	-	-	-
	懇談会(回)	1	1	-	-	-	-	3
	懇談会専門部会(回)	-	-	-	1	-	-	4
	研究会(回)	-	-	-	1	-	-	-

予算・決算の内訳								
平成25年度（決算）			平成26年度（決算）			平成27年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
旅費		0				報償費	委員報償費	609
使用料等		0				旅費	委員旅費	64
需用費		0				需用費	消耗品等	70
役務費		0						
報償費		0						

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		24年度	25年度	26年度	27年度 見込み	目標値 (28年度)	
標	① 懇談会の開催(回)				3	1	27年度懇談会の最終報告
	② 懇談会専門部会の開催(回)				3	1	
	③ 研究会の開催(回)	1				1	

(問題点・課題 指標分析)	平成18年度に作成された「観光振興懇談会報告書」に基づいて、区の魅力を内外に発信し、地域資源を生かした観光振興に取り組んできた。しかしながら、報告書が作成されてから年数が経過し、交通網の変化や来街者の価値観の多様化など、区をとりまく状況は変化し、新たな方向性見出す時期に来ている。また、東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定し、外国人受入体制整備や「俳句のまち あらかわ」としての誘客など新たな取組が求められている。
他区の実況	(実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区)

問題点・課題の改善策			
	平成26年度に取り組む 具体的な改善内容	平成26年度に実施した 改善内容および評価	平成27年度以降に取り組む 具体的な改善内容
①	懇談会報告書の提言内容の実施状況と現状の課題の整理	平成27年度の懇談会開催に向け、前回懇談会報告書の実施状況と今後より注力すべき事項を整理した。	荒川区の現状の課題やこれから目指すべき姿など、懇談会を開催し、提言を報告書としてまとめる。
②			
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
27年度	28年度	
継続	継続	有識者からの視点をより実践的・具体的に施策に反映していくため、懇談会等の提言を今後の計画づくりに活用する。

況議 会 (要 質 問 状)	
-------------------------------	--

# 事務事業分析シート（平成27年度）

No1

主要事業	事務事業コード	05-04-07	戦略プラン	● 協働	○ 業務	○ 財務	○ 人事
事務事業名	都電荒川線活用事業	部課名	産業経済部観光振興課	課長名	中野	担当者名	池野
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（27年度）	01-02-02	都電荒川線活用事業					
事務事業の種類	○ 新規事業（○ 27年度 ○ 26年度）		○ 建設事業		○ それ以外の継続事業		
開始年度	○ 昭和 ● 平成	19年度	根拠				
終期設定	○ 有 ● 無	年度	法令等				
実施基準	○ 法令基準内 ○ 都基準内 ● 区独自基準		計画区分	● 計画		○ 非計画	
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市				
	政策	06	人が集う魅力あるまちの形成				
	施策	01	観光による地域活性化の推進				
目的	区の観光資源である都電荒川線を活用し、区外からの観光客を呼び込む。区内商店街や都電沿線区（北区、豊島区、新宿区）、東京都（交通局）と連携したイベント等の実施や、特別号の運行により、一層の知名度及びイメージの向上を図る。						
対象者等	区民、区外の人々及び来訪者						
内容	<p>【都電荒川線沿線4区地域活性化協議会事業】（平成24年度に協議会設立）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・都電荒川線沿線絵画コンテスト（23、24年度）</li> <li>・都電荒川線沿線スタンプラリー（25年度～）</li> </ul> <p>平成25年実績：9月14日（土）～10月27日（日）に実施、賞品応募者数1,337人 平成26年実績：8月15日（金）～9月15日（月）に実施、賞品応募者数2,003人</p> <p>【都電特別号の運行】</p> <p>都電バラ号（5月）平成24年度～、都電ハロウィン号（10月）平成24年度～、都電さくら号（3～4月）平成24年度～ 都電おもいで号（10月）平成26年度</p>						
経過	<p>平成19年度 「都電荒川線ウォークラリー」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・都電荒川線をPRするとともに、沿線の魅力を多くの人に伝えるため、北区との共催により実施。</li> </ul> <p>平成23年度 「都電荒川線100周年記念事業」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・荒川区主催事業：都電100周年荒川区観光ツアー、都電100周年企画展（ふるさと文化館）など</li> <li>・記念事業実行委員会主催事業（荒川区、北区、豊島区、新宿区及び都交通局）：都電サミット、都電荒川線沿線絵画コンテスト、花電車の運行、特設HP開設</li> </ul> <p>平成25年度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・都電荒川線沿線4区地域活性化協議会が主催し、「都電荒川線スタンプラリー」を実施</li> </ul> <p>これにより、「都電荒川線ウォークラリー」はスタンプラリーへ移行</p>						
必要性	区の観光資源である都電荒川線を中心としたイベント開催や話題づくりにより、区のイメージアップ・PRにとどまらず商店街の活性化に寄与するところは大きいと考える。						
実施方法	( 1直営 ) ( 直営の場合 ● 常勤 ○ 非常勤 ○ 臨時職員 )						

(単位：千円)

予算・決算額等の推移	国 都 その他	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
		予算額	1,113	1,205	1,935	1,413	502	193
①決算額（27年度は見込み）		971	802	1,726	919	74	30	190
②人件費等		2,850	3,052	5,505	4,131	1,663	3,090	
③減価償却費			1,017	2,022	1,614	676	1,300	
【事務分担量】（%）		35	35	65	50	20	40	
合計（①+②+③）		3,821	4,871	9,253	6,664	2,413	4,420	190
特定財源								
一般財源		3,821	4,871	9,253	6,664	2,413	4,420	190
実績の推移	事項名	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	都電荒川線沿線ウォークラリー（参加者数）	1,301	306	1,774	1,713	—	—	—
	都電沿線絵画コンテスト（応募数）	—	—	658	343	—	—	—
	都電荒川線沿線スタンプラリー（参加者数）	—	—	—	—	1,377	2,003	—

予算・決算の内訳								
平成25年度（決算）			平成26年度（決算）			平成27年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
需用費	スタンプラリー賞品	74	需用費	スタンプラリー景品ほか	27	需用費	スタンプラリー景品ほか	190
負担金補助等	特別号装飾品	0	使用料等	都電落語会施設使用料	2			
委託料		0						

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		24年度	25年度	26年度	27年度見込み	目標値(28年度)	
標	① 都電荒川線沿線ウォークラリー参加者数（人）	1,713					
	② 都電荒川線沿線スタンプラリー（人）		1,377	2,003	2,000	2,000	賞品応募者数
	③						

（問題点・課題分析）	① イベントの実施による都電活用は充実してきているが、都電沿線の活性化については、沿線3区及び交通局と連携し、更なる工夫を進めていく必要がある。
	② 俳句・バラ・あらかわ遊園等沿線の魅力を都電と関連付け、「都電の走るまちあらかわ」のイメージを作り、発信していく必要がある。
他区の実況	（実施 3 区 未実施 19 区 不明 0 区） ・都電荒川線沿線4区地域活性化協議会に加入

問題点・課題の改善策			
	平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成26年度に実施した改善内容および評価	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	沿線4区連携によるスタンプラリーについて、25年度の実施結果等を踏まえレベルアップ及び定着を図っていく。	沿線4区連携によるスタンプラリーにおいて、開催時期等の工夫により、前年より多くの方が参加するという結果を得られた。	沿線4区連携によるスタンプラリーについて、25年度及び26年度の実施結果等を踏まえレベルアップ及び定着を図っていく。
②	平成26年度は「荒川線」となって、40周年であることから、特別号の運行や区内外に向けたPRを強化し、一層の集客を図る。	40周年を記念し、スタンプラリーに記念賞を設定、都電荒川線の歴史を振り返る特別号の運行、荒川遊園と連携したPR等を実施	あらゆる機会をとらえ、新たな企画を立ち上げるなど、沿線の活性化を図る。
③			ラッピング都電を活用し、都電沿線地域の活性化を図る。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
27年度	28年度	
継続	継続	荒川区の観光資源の一つである都電荒川線やあらかわ遊園を活用し、沿線3区及び東京都交通局等と連携の上、都電荒川線沿線地域全体の活性化を図っていく。

況議会（要質問状）	H18一定	観光産業振興を図るため、花電車を走らせたかどうか。
	H18四定	都電を活用し、荒川区の観光振興を図るべきである。
	H24三定	都電を活用した地域や交通局、沿線4区との連携等。

# 事務事業分析シート（平成27年度）

No1

主要事業	事務事業コード	05-04-08	戦略プラン	● 協働	○ 業務	○ 財務	○ 人事
事務事業名	受入体制整備事業	部課名	産業経済部観光振興課	課長名	中野	担当者名	池野
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（27年度）	01-02-03	受入体制整備事業	内線	461			
事務事業の種類	○ 新規事業（○ 27年度 ○ 26年度）		○ 建設事業	○ それ以外の継続事業			
開始年度	○ 昭和 ● 平成	17年度	根拠法令等	荒川区外国人来訪者受入体制整備支援事業補助金交付要綱等			
終期設定	○ 有 ● 無	年度					
実施基準	○ 法令基準内 ● 都基準内 ● 区独自基準		計画区分	● 計画 ○ 非計画			
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市				
	政策	06	人が集う魅力あるまちの形成				
	施策	01	観光による地域活性化の推進				
目的	観光客の多様なニーズに対応できる受入環境の整備促進のため、外国人旅行者にも配慮した外国語（英語、中国語、ハングル）標記の観光案内標識を整備するとともに、観光ボランティアガイドによる案内を促進させることにより、来訪者の受入体制の充実を図る。						
対象者等	区民及び観光客、区内の宿泊施設及び飲食店						
内容	<p>【観光案内標識設置事業】東京都観光案内標識設置補助金交付要綱に基づく補助事業                      17年度 日暮里地区 4基設置 18年度 南千住地区 5基設置 19年度 都電川線沿線 5基設置                      20年度 汐入地区 5基設置 以後、毎年度日暮里地区から順番に改訂、標識清掃の開始                      22年度 三ノ輪停留場標識を都から移管</p> <p>【外国人来訪者受入体制整備支援事業】（平成20年度～）                      区内の宿泊施設、飲食店を営む事業者が外国語版のホームページ、パンフレット、メニュー表、看板等を新規に作成する場合の初期経費の一部（3分の2上限20万円）を補助                      （助成件数：20年度2件、21年度1件、22年度1件、23年度1件、24年度0件、25年度0件、26年度0件）</p> <p>【観光ボランティアガイド】養成講座の実施（平成18年度～）、ガイドの活動（平成18年度～）                      H21全10回6人登録、H22全10回16人登録、H23全10回8人登録、H24全8回10人登録、H25全8回10人登録、H26全8回3人。ガイド登録者数：110名（延べ人数）※現在登録者数：59名（うち休会者6名）</p>						
経過	<p>【観光案内標識設置事業】                      平成17年度 事業開始（04-03-08観光案内標識設置事業から組み替え）</p> <p>【外国人来訪者受入体制整備支援事業】                      平成20年度 事業開始                      平成26年度 要綱を一部改正（対象事業を飲食店にも拡充する）</p> <p>【観光ボランティアガイド事業】                      平成22年度 観光情報提供事業より移管</p>						
必要性	多言語の案内や標識等の整備を進めることは、特に外国人来訪客に荒川区の観光における満足度を高め、リピーターとしての来訪増加が期待出来る。						
実施方法	（一部委託）（直営の場合 ○ 常勤 ○ 非常勤 ○ 臨時職員）						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	国 都 その他	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
		一般財源	4,797	7,121	8,924	10,357	10,677	13,335
実績の推移	事項名	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	観光案内標識設置	-	-	-	-	-	-	-
	観光案内標識内容更新・修正	4	5	5	6	5	5	
	外国語版HP作成支援	1	1	1	0	0	2	
	ガイド活動	16	23	26	25	29	32	

予算・決算の内訳								
平成25年度（決算）			平成26年度（決算）			平成27年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
委託料	標識更新・標識清掃委託等	563	報償費	ガイド養成講座講師謝礼	29	報償費	ガイド養成講座講師謝礼	81
需用費	ガイド消耗品等	114	需用費	ガイド消耗品等	63	需用費	ガイド消耗品等	100
役務費	ボランティアガイド保険	30	役務費	ボランティアガイド保険料	20	役務費	ボランティアガイド保険料	46
報償費	ガイド養成講座講師謝礼	29	委託料	標識更新・標識清掃委託等	2,248	委託料	標識更新・標識清掃委託等	1,264
負担金補助等	外国人来訪者受入体制整備補助	0				負担金補助等	外国人来訪者受入体制整備補助	400

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		24年度	25年度	26年度	27年度 見込み	目標値 (28年度)	
標	① 設置標識数(基)	19	19	19	19	19	数値は累計
	② 外国語版HP等作成支援(件)	5	5	5	6	7	数値は累計
	③ 観光ボランティアガイドの活動(回)	25	29	21	25	30	来訪者からの依頼に基づく活動数

問題点・課題 (指標点分析)	①ものづくりスポットを取り入れるなど、新たな魅力あるコース開発が必要である。 ②観光ボランティアガイドのさらなる充実を図り、実際にガイドを行うことができる人数を増やすことが必要である。 ③外国語でのガイドが可能なボランティアガイドの育成を図る必要がある。 ④ガイド依頼数を増やすため、区内外にPRする必要がある。 ⑤受入体制整備支援事業の助成対象の周知を充実させる必要がある。
	他区の実況 (実施 15 区 未実施 0 区 不明 7 区) 観光案内標識…台東区、豊島区、中央区、葛飾区、千代田区、足立区他

問題点・課題の改善策			
	平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成26年度に実施した改善内容および評価	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	観光ボランティアガイドのPR方法について新たな方法を開拓し、一層の周知に努める。	ボランティアガイドと連携し、PRチラシの改善を図った。	他自治体のイベント等に出店し、PRを行う。また、対象事業について現況調査を行い、ニーズに応える支援体制を構築する。
②	ボランティアガイドのスキルアップ研修会については、新たなメニューの追加も含め、今後も必要なものについて随時実施していく。	新規及び既存ボランティアガイドに対する研修の充実策を整理した。	ボランティアガイドのスキルアップを図るため、引き続き研修の充実を図る。
③	受入体制整備支援事業については、助成対象及び助成事業について見直し、対象者を増やし、区の受入体制を整備していく。	受入体制整備支援事業について、要綱を一部改正し、対象となる事業を飲食店にも拡充した。	荒川区の定番ガイドコースを作成できるよう荒川区の見どころや過去のガイド実施ルートなどまとめ、作成に向けた下準備を行う。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
27年度	28年度	
推進	推進	来訪者の受入環境の充実を図るため、引き続き観光ボランティアガイドの養成とスキルアップを図っていく。

況議 (要質 会問 質問 状)	H20三定 外国人観光客誘致に向け、観光案内所を日暮里駅周辺へ設置すべき。
-----------------------------	---------------------------------------

# 事務事業分析シート（平成27年度）

No1

主要事業	事務事業コード	05-04-09	戦略プラン	●協働 ○業務 ○財務 ○人事
事務事業名	奥の細道千住あらかわサミット事業	部課名	産業経済部観光振興課	課長名
		担当者名	大和田	内線
				461
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（27年度）	---			
事務事業の種類	○新規事業（○27年度 ○26年度） ○建設事業 ○それ以外の継続事業			
開始年度	○昭和 ●平成 25年度		根拠	
終期設定	●有 ○無 26年度		法令等	
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	○計画 ●非計画
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市	
	政策	06	人が集う魅力あるまちの形成	
	施策	01	観光による地域活性化の推進	
目的	奥の細道旅立ちの地である千住をPRし、観光及び地域振興を図るため、平成26年度に「第27回 奥の細道 千住あらかわサミット」及びその関連事業を実施する。			
対象者等	・区民及び来街者 ・奥の細道サミット参加自治体関係者			
内容	芭蕉翁の業績を顕彰するとともに地域の活性化に結びつく活動と郷土の歴史文化の活用を互いに連携し、広く内外に展開するため、毎年、加盟団体により、サミット総会を開催している。26年度は第27回サミットを荒川区で開催する。[サミット概要]平成27年3月14日(理事会、総会、交流会)、15日(エクスカーション/区内奥の細道ゆかりのスポット及び産業展) [関連事業(観光振興課)]①旅立ちの日記念バスツアー(5月16日、参加22名)、②矢立初めの地・フォト俳句コンテスト(投句1,008句)、③千住まちあるきツアー(10月10、17、29日の3日間、参加各50名)、④パネルディスカッション～奥の細道 芭蕉旅立ちの謎に迫る～(11月30日、参加120名)⑤松尾芭蕉像の建立(平成27年3月建立)、⑥奥の細道千住あらかわサミット開催記念イベント：俳句宣言発表、子ども俳句相撲大会、記念講演会、フォト俳句コンテスト表彰式(平成27年3月14日、日暮里サニーホール、参加400名)、⑦奥の細道関連事業補助(補助率等1/2 上限額5万円、補助件数2件) [関連事業(他課)]荒川ふるさと文化館でのパネル展及び企画展、芭蕉の大橋渡り、芭蕉ランチ等			
経過	「奥の細道サミット」は、奥の細道紀行300年を契機として、奥の細道ゆかりの市町村等が芭蕉翁の業績をより一層顕彰することなどを目的として昭和63年に発足した。加盟団体は(平成26年6月1日現在 37団体) 荒川区は平成19年度から参加しており、また、旅立ちの地・千住をより広く区内外に紹介するため、開催地として立候補し、平成24年こまつサミット総会において平成26年度の開催地として承認された。これに伴い、平成25年度は、プレイベント実行委員会を立ち上げ、サミット開催に向けた各種プレイベントを実施した。 [プレイベントの内容] ・記念講演会(金子兜太氏、城戸真亜子氏)、千住まちあるきツアー(平成25年10月17、30日)、パネル展 [最近のサミット開催状況] 24年度 石川県小松市(9月29、30日) 25年度 宮城県岩沼市(6月29、30日) 26年度 東京都荒川区(3月14、15日開催)、27年度 栃木県鹿沼市(5月23、24日)、28年度 大垣市予定			
必要性	本サミットを荒川区で開催することで、南千住を奥の細道旅立ちの地として観光資源化していくための対外的な一層のPRと、地元の盛り上げの双方において大きな効果が期待できる。			
実施方法	( 2一部委託 ) ( 直営の場合 ○常勤 ○非常勤 ○臨時職員 ) 実行委員会に対する補助(5,455千円)、区直接執行分(7,693千円)			

(単位：千円)

予算・決算額等の推移		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	予算額						4,477	13,641
①決算額(27年度は見込み)						4,187	13,147	
②人件費等						7,901	8,884	
③減価償却費						3,211	3,739	
【事務分担当】(%)						95	115	
合計(①+②+③)		0	0	0	0	15,299	25,770	0
特定財源	国					0	0	-
	都					1,745	4,587	-
	その他					0	0	-
一般財源		0	0	0	0	13,554	21,183	0
実績の推移	事項名	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	サミット加入団体数	-	-	-	-	37	38	-
	関連イベント実施数(観光振興課)	-	-	-	-	2	6	-

予算・決算の内訳								
平成25年度（決算）			平成26年度（決算）			平成27年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	東西俳句相撲大会視察者報償	35	報償費	地方物産展出店時出店者報償費	153			
旅費	サミット参加旅費	160	旅費	地方物産展出店時職員旅費	339			
役務費	—	0	需用費	サミット関連消耗品購入	107			
委託料	—	0	委託料	芭蕉像説明板作成ほか	624			
負担金補助等	サミット実行委員会補助	3,992	工事請負費	芭蕉像設置場所整備	867			
			備品購入費	芭蕉像購入	5,542			
			負担金補助等	サミットイベント実行委員会補助	5,515			

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		24年度	25年度	26年度	27年度 見込み	目標値 (28年度)	
標	① 奥の細道サミット関連イベント実施数（観光振興課）		2	6			まちあるきイベントなど
	② 関連イベント参加者数（観光振興課）		670	1699			各イベントの参加者数で算出
	③						

（問題点・課題分析）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本サミットを契機とし、南千住を奥の細道矢立初めの地として観光資源化していくためには、地域全体として松尾芭蕉・奥の細道を盛り上げ、さらには「俳句のまち あらかわ」を一層区民に広めることが求められる。</li> <li>・俳句文化の振興によるまちの魅力発信を地域の観光関係団体・文化団体や地域文化スポーツ部、教育委員会などと連携して進めていく必要がある。</li> </ul>
他区の実況	（実施 2 区 未実施 20 区 不明 0 区） 「奥の細道サミット」加入団体は、23区では当区のほか江東区、足立区の2区。

問題点・課題の改善策			
	平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成26年度に実施した改善内容および評価	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	関連団体などにおける奥の細道関連イベント等の実施を促進していく。	多くの関連団体に協力を要請しイベントの実施を促進した。	—
②			
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
27年度	28年度	
休止・完了	休止・完了	奥の細道千住あらかわサミットの開催を終え、本事業での取り組みは完了した。今後、奥の細道活用事業を中心に「俳句のまちあらかわ」を活用した観光振興事業を図っていく。

況議会（要質問状）	H25一定 「奥の細道旅立ちの地」という重要な地域資源を活かした観光振興を推進すべき
-----------	--

# 事務事業分析シート（平成27年度）

No1

主要事業	事務事業コード	05-04-10	戦略プラン	● 協働	○ 業務	○ 財務	○ 人事
事務事業名	水辺空間活用事業		部課名	産業経済部観光振興課	課長名	中野	
			担当者名	池野、三宮	内線	461	
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（27年度）	01-02-04	水辺空間活用事業					
事務事業の種類	○ 新規事業（○ 27年度 ○ 26年度）		○ 建設事業		○ それ以外の継続事業		
開始年度	○ 昭和 ● 平成 26年度		根拠				
終期設定	○ 有 ● 無 年度		法令等				
実施基準	□ 法令基準内 □ 都基準内 ■ 区独自基準		計画区分	○ 計画		● 非計画	
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市				
	政策	06	人が集う魅力あるまちの形成				
	施策	01	観光による地域活性化の推進				
目的	・ 隅田川の水辺空間を活用し、賑わいを創出するための新たなイベントを実施することにより、区内でも数少ない広々とした水辺空間である汐入地域などの魅力を発信し、誘客を図る。 ・ 隅田川ルネサンス推進協議会への加入を契機に今後、東京都及び隅田川沿川の近隣区、団体等連携を図り、東京の貴重な水辺空間である隅田川の魅力発信をこれまで以上に推進していく。						
対象者等	区民、区外の人々及び来訪者						
内容	○ 都立汐入公園において、汐入水辺フェスタ2015を実施。(9/13) ①パフォーマンスイベント(ヘブンアーティストによるパフォーマンス)、②隅田川クルーズ(水上バスまたは屋形船)、③水辺アートイベント(汐入タワーを活用)、④観光ボランティアガイドによるまちあるき ⑤各種体験コーナー、⑥キッチンカーによる飲食の提供 ※26年度は台風接近により中止 ○ 隅田川ルネサンス協議会への参加 協議会：産業経済部長、防災都市づくり部長 専門委員会、行政連絡会：観光振興課長、都市計画課長 [隅田川ルネサンス協議会について] 隅田川ルネサンスは隅田川の賑わいを現代に生まれ変わらせ、新たな水と緑の都市文化を未来につなぐ取り組みとして始められ、取り組みを一層推進させ、東京都と隅田川沿川区や関係諸団体との連携を図るため、学識経験者や地元団体、行政関係者等から成る隅田川ルネサンス推進協議会が設置された。						
経過	[隅田川ルネサンス協議会] 平成23年4月 協議会の設立(中央区、台東区、墨田区、江東区及び各区の観光協会、学識経験者、東京都が参加) 平成24年度 各種イベントの後援(東京ホテル、隅田川夕日見、舟運フォーラム等) 平成25年度 ①特定テーマの選定 船上サービスの充実、あかりを活用した夜間景観のイメージアップ、飲食店の多様な展開 ②隅田川ルネサンスのロゴマークの作成 ③ホームページのリニューアル 平成26年2月 荒川区が協議会に正式参加 平成26年度 社会実験とこれまでのまとめ 汐入水辺フェスタ開催(台風接近により中止とした)(10/13)						
必要性	隅田川の水辺を活用し、新たなイベントを実施することで、水辺の賑わいが創出され、来訪者の誘致と区民の水辺のまちとしての機運の醸成につながることを期待できる。						
実施方法	( 二一部委託 ) ( 直営の場合 ○ 常勤 ○ 非常勤 ○ 臨時職員 )						

(単位：千円)

予算・決算額等の推移		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
		予算額					—	—
①決算額(27年度は見込み)					—	—	414	1,368
②人件費等							1,545	
③減価償却費							650	
【事務分担当】(%)							20	
合計(①+②+③)		0	0	0	0	0	2,609	1,368
特定財源	国							
	都							
	その他							
一般財源		0	0	0	0	0	2,609	1,368
実績の推移	事項名	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	汐入水辺フェスタ来場者	—	—	—	—	—	—	—

予算・決算の内訳								
平成25年度（決算）			平成26年度（決算）			平成27年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
			需用費	汐入水辺フェスタ関連消耗品購入	63	需用費	汐入水辺フェスタ関連消耗品購入	200
			委託料	汐入水辺フェスタ会場設営費ほか	351	役務費	イベント保険料	23
						委託料	汐入水辺フェスタ会場設営費ほか	1,145

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		24年度	25年度	26年度	27年度 見込み	目標値 (28年度)	
①	水辺フェスタ来場者	0	0	0	5000	5000	都立汐入公園主催の休日イベント 来場者数をもとに算出
②							26年度は台風により中止
③							

（問題点・課題 分析）	水辺空間を活用した賑わいづくりを創出するためには、庁内他課等と連携の上、魅力あるイベントを継続して実施していくとともに東京都や隅田川沿川の近隣区、関連団体との連携を図る必要がある。
	（実施 4 区 未実施 18 区 不明 0 区） 23年4月に中央区、台東区、墨田区、江東区の4区が隅田川ルネサンス推進協議会へ参加
他 区 の 実 況	

問題点・課題の改善策			
	平成26年度に取り組む 具体的な改善内容	平成26年度に実施した 改善内容および評価	平成27年度以降に取り組む 具体的な改善内容
①	他課と連携のうえ、水辺フェスタを開催する。	都、他課、地元商店街と連携のうえ、水辺フェスタを企画したが台風接近により中止となった。	引き続き都や他課と連携のうえ、水辺フェスタを開催し、誘客を促進していく。
②			
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
27年度	28年度	
推進	推進	地域資源の一つである「水辺空間」を活用した誘客の促進を図るため、東京都、隅田川沿岸区や関係団体等と連携の上、引き続き隅田川の魅力発信を行っていく。

況 議 会 （ 要 質 問 状 ）	
---	--

# 事務事業分析シート（平成27年度）

No1

主要事業	事務事業コード	05-04-11	戦略プラン	○協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	奥の細道活用事業		部課名	産業経済部観光振興課	課長名	中野	
			担当者名	大和田	内線	461	
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（27年度）	01-05-01	奥の細道活用事業					
事務事業の種類	●新規事業（○27年度 ○26年度）		○建設事業		○それ以外の継続事業		
開始年度	○昭和 ●平成	27年度	根拠				
終期設定	○有 ●無	年度	法令等				
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	○計画		●非計画	
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市				
	政策	06	人が集う魅力あるまちの形成				
	施策	01	観光による地域活性化の推進				
目的	荒川区俳句のまち宣言に基づき、俳句のまちであることを区内外に向け広くPRすることで、誘客を促進し、地域の賑わいを創出するため、各種事業を実施する。						
対象者等	<ul style="list-style-type: none"> <li>来街者及び区民、区外の人々</li> <li>奥の細道サミット参加自治体</li> </ul>						
内容	<p>奥の細道及び俳句に所縁の深い区として、「奥の細道矢立初めの地あらかわ」及び「俳句のまちあらかわ」を広く内外へPRし、区外からの誘客を促進するとともに、地域の活性化を図る。</p> <p>[27年度関連事業(イベント関連)]</p> <p>①旅立ちの日記念事業 千住まちあるきツアー(5月22日、募集50名、応募312名、参加41名)②都電句会(11月頃)③芭蕉の大橋渡り(3月頃)</p> <p>[27年度関連事業(整備関連)]</p> <p>①松山市俳句ポストの設置(7月頃)③路上案内シート及びPR旗の設置(10月頃)③ラッピング都電の制作(11月頃)</p> <p>[その他]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>奥の細道サミットin鹿沼(5月23、24日)</li> </ul>						
経過	<p>荒川区は奥の細道矢立初めの地として、奥の細道所縁の自治体・団体が加入している「奥の細道サミット」に平成19年度から参加しており、平成27年3月には奥の細道矢立初めの地として「奥の細道千住あらかわサミット」が開催した。区ではこの奥の細道千住あらかわサミットの開催に向けて、各種関連イベントを実施し、多くの方へ「矢立初めの地あらかわ」をPRしてきた。</p> <p>また、サミット同日には、著名な俳人が多くの句を詠み、区内各地に句碑がある俳句に所縁のある区として、これを区内外へ強く発信することを目的に平成27年3月14日に「荒川区俳句のまち宣言」が発表された。</p> <p>[近年のサミット開催状況]</p> <p>24年度 石川県小松市(9月29、30日) 25年度 宮城県岩沼市(6月29、30日)</p> <p>26年度 東京都荒川区(3月14、15日) 27年度 栃木県鹿沼市(5月23、24日)</p> <p>28年度 岐阜県大垣市(予定) 29年度 富山県高岡市(予定)</p>						
必要性	奥の細道矢立初めの地及び俳句のまちを継続的にPRしていくことで、区内への誘客及び地域の活性化の双方において大きな効果が期待できる。						
実施方法	( 二一部委託 ) ( 直営の場合 ○常勤 ○非常勤 ○臨時職員 )						

(単位：千円)

予算・決算額等の推移	項目	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
		予算額						-
①決算額(27年度は見込み)						-	-	7,170
②人件費等								
③減価償却費								
【事務分担当】(%)								
合計(①+②+③)		0	0	0	0	0	0	7,170
特定財源	国							0
	都							518
	その他							0
一般財源		0	0	0	0	0	0	6,652
実績の推移	事項名	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	関連イベント実施数(観光振興課)	-	-	-	-	2(奥の細道事業費)	6(奥の細道事業費)	3
	奥の細道サミット加入団体数	-	-	-	-	-	-	38

予算・決算の内訳								
平成25年度（決算）			平成26年度（決算）			平成27年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
						報償費	地方物産展出店時出店者報償費	481
						旅費	地方物産展出店時職員旅費	705
						需用費	俳句の街あらかわPR用消耗品ほか	195
						役務費	ラッピング都電広告料ほか	1,082
						委託料	ラッピング都電制作費、都電句会運営委託費ほか	4,231
						使用料等	芭蕉大橋渡り衣装リース料	476

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		24年度	25年度	26年度	27年度 見込み	目標値 (28年度)	
標	① 俳句関連イベント数(観光振興課)				3	3	旅立ちの日記念事業など
	②						
	③						

（問題点・課題分析）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・奥の細道及び俳句文化を活用したPRを行うためには、区内地域全体へ「奥の細道矢立初めの地」及び「俳句のまちあらかわ」を広めることが求められる。</li> <li>・俳句文化によるまちの魅力発信を行うためには、観光関係団体・文化団体や地域文化スポーツ部、教育委員会など関係部署と連携して進めていく必要がある。</li> <li>・既存の観光資源と合わせた俳句文化の区外への発信方法について検討する。</li> </ul>
他区の実況	（実施 2 区 未実施 20 区 不明 0 区） 「奥の細道サミット」加入団体は、23区では当区のほか、江東区、足立区の2区。

問題点・課題の改善策			
	平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成26年度に実施した改善内容および評価	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	-	-	関係団体と連携し、俳句関連イベントを実施していくとともに誘客のための新たな設備等の充実を図っていく。
②	-	-	既存観光資源である都電の活用や、地元商店街などと協力し、区外への魅力発信を図る。
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
27年度	28年度	
推進	推進	区外からの誘客を促進し、地域の活性化を図るため、「奥の細道矢立初めの地あらかわ」及び「俳句のまちあらかわ」を活用した観光振興事業を継続的に実施していく。

況議会（要質問状）	H25一定 「奥の細道旅立ちの地」という重要な地域資源を活かした観光振興を推進すべき
-----------	--



予算・決算の内訳								
平成25年度（決算）			平成26年度（決算）			平成27年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
						報償費	シンポジウム等講師謝礼	127
						需用費	冊子作成費ほか	184
						委託料	シンポジウム用看板作成	17
						使用料等	シンポジウム会場使用料	51

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		24年度	25年度	26年度	27年度 見込み	目標値 (28年度)	
①	三河島菜フェア提供食数（合計）	0	482	452	450	450	レストランさくら実施（5日間合計）
②	三河島菜販売数（セット）	0	173	329	300	300	にっぽりマルシェでの販売
③							

問題点・課題 (指標分析)	<ul style="list-style-type: none"> <li>荒川の伝統野菜として区民に認知されつつあるが、まだまだ食したり、直接触れる機会が少ない</li> <li>生産や流通ルートが確保されない</li> </ul>
	他区の実況 （実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区）

問題点・課題の改善策			
	平成26年度に取り組む 具体的な改善内容	平成26年度に実施した 改善内容および評価	平成27年度以降に取り組む 具体的な改善内容
①	荒川の伝統野菜である三河島菜の認知度を高めるため、定期的な情報発信を行う。	「復活！あらかわの伝統野菜」だよりをホームページで定期的に発信。	引き続き「復活！あらかわの伝統野菜」だよりを発行し、区の取組や三河島菜の情報を発信していく。
②			区民による収穫体験など、三河島菜に直接触れたり食したりする機会を提供する方法について検討を開始する。
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
27年度	28年度	
継続	継続	三河島菜の認知度を高め、区の魅力向上を図るため、今後も継続した取組を行っていく。

議 会 要 旨 問 状	
----------------------------	--